



令和7年12月16日
中部地方整備局
木曽川下流河川事務所

木曽三川下流部広域避難実現プロジェクト シンポジウムを開催します！

～「避難指示」の前に動く。自らの判断で命を守る～

木曽三川下流部広域避難実現プロジェクト※では、木曽三川下流部の8市町村で構成する組織であり、高潮や洪水氾濫による大規模水害から地域や住民自らが命を守るために主体的に行動することで円滑な広域避難の実施につなげ被害最小化を目指すことを目的としています。

本シンポジウムでは、広域避難の実現に向けて、木曽三川下流部の水害リスクや広域避難の重要性を周知しております。

※木曽三川下流部広域避難実現プロジェクト

構成員：海津市、愛西市、津島市、弥富市、蟹江町、飛島村、桑名市、木曽岬町、
木曽川下流河川事務所

アドバイザー：東京大学大学院情報学環特任教授 片田 敏孝氏
東京大学生産技術研究所教授 加藤 孝明氏

1. 日 時 令和8年1月17日（土）14:30～16:45
2. 場 所 三重県桑名市中央町三丁目20番地 柿安シティホール（桑名市民会館）
3. 講演内容 【基調講演】「わが国の防災行政における広域避難問題の現在」
講師：東京大学大学院情報学環特任教授 片田 敏孝氏
【伊勢湾台風伝承】「伊勢湾台風を経験して伝えたいこと」
講師：伊勢湾台風語り部 伊藤 清文氏
【8市町村長からのコメント】
海拔ゼロメートル地帯における広域避難について
4. 添付資料 別紙1（概要）、別紙2（チラシ）、別紙3（取材登録書）
5. 取材について 別紙3をFAXかメールで送付をお願いいたします。
6. 配布先 桑名市政記者クラブ、中部地方整備局記者クラブ

（問合せ先）

国土交通省中部地方整備局 木曽川下流河川事務所

副所長 富安 輝正 流域治水課長 山内 扶美 建設専門官 小玉 有一

電話：0594-24-5715 FAX:0594-21-0893

木曽三川広域避難実現プロジェクトとは

木曽川下流河川事務所及び8市町村※による広域避難実現に向けた組織。

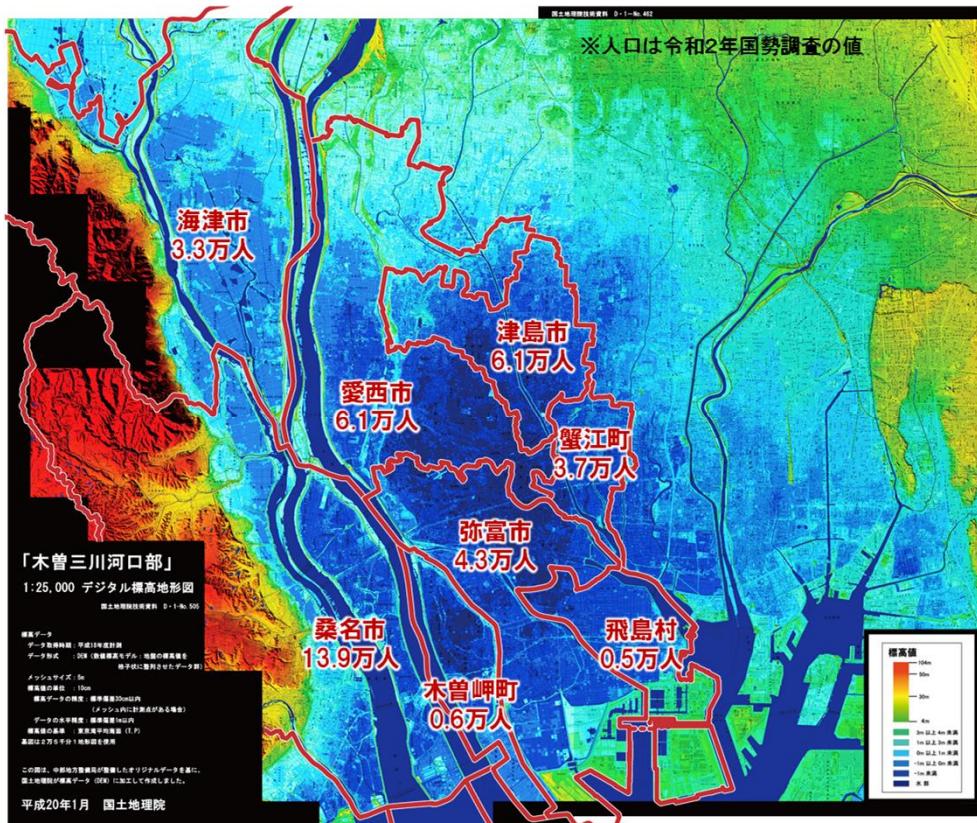
平成28年10月から、広域避難の実現に向けた計画を市町村の枠を越えて地域全体で検討している。

※海津市、愛西市、津島市、弥富市、蟹江町、飛島村、桑名市、木曽岬町

広域避難の必要性

木曽三川下流部が位置する濃尾平野は、我が国最大の海拔ゼロメートル地帯が広がっており、伊勢湾台風では、ゼロメートル地帯が最長で120日間にもわたって浸水した。

この地域に巨大台風が襲来すると予測された際に、この地域の減災のため、**浸水エリアからの避難である「広域避難」**が必要不可欠となる。



出典：デジタル標高地形図「中部」濃尾平野周辺（国土地理院）をもとに作成
※人口は令和2年国勢調査の値

シンポジウムについて

本シンポジウムでは、広域避難の実現に向けて8市町村内で木曽三川下流部の水害リスクや広域避難の重要性を周知している。

今年度は、東京大学片田敏孝特任教授によるご講演と伊勢湾台風の記憶を次世代につなげるための語り部による伝承、海拔ゼロメートル地帯における広域避難をテーマに8市町村が思いを語る場を予定している。



令和5年度 シンポジウムの様子 (R5.11.19)
(会場：飛島村総合社会教育センター)
※令和6年度は中止。

入場無料

会場定員200名
(先着順)

日時

令和8年

1月17日(土)

14:30~16:45
(14:00開場)会場 柿安シティホール 小ホール
(桑名市民会館)
桑名市中央町3丁目20

※会場へのアクセスは裏面をご覧ください。

巨大台風が木曽三川下流部に接近した場合、高潮や洪水により広範囲かつ長期にわたる浸水が生じる恐れがあります。大規模水害が頻発する今、行政任せの姿勢で大丈夫でしょうか?必要なのは、「自らの判断」で早めに動くこと。「指示待ち」を卒業し、自ら生き抜くための「新しい選択」を共に考えましょう。

シンポジウムでは、片田敏孝特任教授による講演と伊勢湾台風の記憶を次世代につなげるための語り部による伝承、海拔ゼロメートル地帯における広域避難をテーマに地域の8市町村の思いを語っていただきます。

特別講演

わが国の防災行政における広域避難問題の現在

講師

かただ としたか
片田 敏孝
東京大学大学院
情報学環
特任教授



専門は災害情報学・災害社会工学
災害への危機管理対応、災害情報伝達、防災教育、避難誘導策のあり方等について研究するとともに、地域での防災活動を全国各地で展開している。

伊勢湾台風伝承

伊勢湾台風を経験して
伝えたいこと

語り部

いとう きよみ
伊藤 清文
伊勢湾台風のつどい



小学校5年生の時に伊勢湾台風により被災。その経験を次に伝えつつ、防災情報を自ら取りに行き行動することが被害最小化に繋がる伝承活動を、桑名市内小学校を中心に展開している。

自治体コメント

登壇予定者

桑名市長	伊藤 徳宇
木曽岬町長	三輪 一雅
飛島村長	加藤 光彦
津島市長	日比 一昭
愛西市長	日永 貴章
海津市長	横川 真澄
弥富副市長	村瀬 美樹
蟹江副町長	加藤 正人

伊勢湾台風 浸水状況

陸上自衛隊撮影

中部地区自然災害科学資料センター提供

カラー加工:一社社団法人中部地域づくり協会

参加希望の方

申込方法

- ウェブフォームより必要事項を入力してお申込みください。
- 先着順に受付します。受付後、自動返信メールが届きましたら受付完了です。
- 定員に達した場合には、申込み期限前でも締め切る場合がございます。
※諸事情により中止になる場合があります。

※当日は会場内の様子を記録撮影いたします。記録は木曽三川下流部広域避難実現プロジェクトの広報等に使用させていただきますので、予めご了承願います。

主催：木曽三川下流部広域避難実現プロジェクト

(海津市、愛西市、津島市、弥富市、蟹江町、飛島村、桑名市、木曽岬町、中部地方整備局 木曽川下流河川事務所)

協力：一般社団法人 中部地域づくり協会

申込期限：令和8年1月14日(水)



ウェブフォーム

下記サイトにアクセスして
お申込みください。

お申込みサイト

https://www.cbr.mlit.go.jp/kisokaryu/R07kouikihinan_shinpojium/index.html


木曽三川と生きる。 命をつなぐための「新しい選択」

～「避難指示」の前に動く。自らの判断で命を守る～

プログラム

14:00	開場	展示	伊勢湾台風 AI (伊勢湾台風を学べる AI 語り部との対話体験を行っていただけます)
14:30	開会		高潮・浸水疑似体験 VR
14:35	特別講演	わが国の防災行政における広域避難問題の現在	東京大学大学院情報学環 特任教授 片田 敏孝
15:20	伊勢湾台風伝承	伊勢湾台風を経験して伝えたいこと	伊勢湾台風のつどい 語り部 伊藤 清文
16:00	自治体コメント	【登壇予定者】 桑名市長 伊藤 徳宇 木曾岬町長 三輪 一雅 飛島村長 加藤 光彦 津島市長 日比 一昭	愛西市長 日永 貴章 海津市長 横川 真澄 弥富副市長 村瀬 美樹 蟹江副町長 加藤 正人
16:00	【アドバイザー】 東京大学大学院情報学環 東京大学	片田 敏孝 教授	片田 敏孝 加藤 孝明
16:45	閉会		(敬称略・順不同)

会場へのアクセス



柿安シティホール

桑名市中央町3丁目20

<https://www.city.kuwana.lg.jp/bunka/bunkashisetsu/ntncityhall/index.html>

会場の駐車場台数には限りがありますので
公共交通機関でのご来場にご協力をお願いいたします

【公共交通機関でお越しの方】

- JR 東海関西本線・近鉄名古屋線・養老鉄道養老線
桑名駅東口より歩約 15 分
- 三岐鉄道北勢線
西桑名駅より歩約 15 分

【お車でお越しの方】

- 東名阪自動車道 桑名 IC より約 15 分
- 伊勢湾岸自動車道 湾岸桑名 IC より約 15 分
立体駐車場あり

開催後に本シンポジウムの様子をオンライン配信します

動画は公開サイトにて後日配信いたします。どなたでもご視聴いただけます。

https://www.cbr.mlit.go.jp/kisokaryu/R07koukihinan_shinpojium/index.html



別紙3「取材登録書」

「木曽三川下流部広域避難実現プロジェクト シンポジウム」

取材登録書

当検討会の取材をご希望される報道機関におかれましては、事前登録のためこちらの取材登録書をご記入のうえ、期限までにFAXまたはメールにて送信をお願いいたします。

送信期限 令和8年1月16日(金)12時00分まで

1. 報道機関名 _____

2. 取材者

(1)お名前(複数名の場合、代表者名)

(2)ご連絡先 TEL _____

(3)取材人数 _____ 人

送信先 : 木曽川下流河川事務所 流域治水課

FAX番号 0594-21-0893

メールアドレス cbr-karyu_chousa@mlit.go.jp

※講演中の撮影は、報道の際の画像・映像資料として使用いただく場合に限り可能としますが、
講演の妨げとならないようお願いいたします。